

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1174500973 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 明和会 | | |
| 事業所名 | おぶすまの里 | | |
| 所在地 | 〒369-1215 埼玉県大里郡寄居町牟礼1510 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年3月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年5月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社ユーズキャリア | | |
| 所在地 | 埼玉県熊谷市宮前町2-241 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年4月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にかこまれた環境の中での生活をたのしんでいただいている 地元からの入所者も多く、併設されているデイサービスの方達との交流をたのしんでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

秩父の山並みが見渡せ、田畑に囲まれ、緑豊かな自然があふれる心安らぐ2ユニットのホームである。広い敷地内の草木や花は、四季折々に利用者の心を楽しませ、ヤギ・うさぎ・チャボ等の動物を飼育している。畑の野菜は食卓に色を添え、秋のさつま芋堀には保育所園児を招待し、交流の場となっている。又、デイサービスが併設され、地元の馴染みの方との触れ合いもある。ホーム内の床、壁は木の温もりがあり、窓から注ぐ自然な光や風を感じながら、自分のペースでのんびり、ゆったりとした生活を送っている。地元の若い職員も多く働き、ホーム理念の地域貢献に則した事業運営が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 家庭的な環境作りを心がけ、サービス理念のもと、どうしたら地域密着型サービスについてより良いものにできるか、職員間で話し合い意見を共有している。 | 新入職員には理事長より理念についての講話を行っている。又、管理者は毎月の職員会議において理念について触れ、職員間で話し合うことによって理解を深め、よりよい地域密着サービスの実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の催し(祭典、花火大会など)やボランティアとのかかわり、散歩や買い物への外出など、生活の中で地域の一員として交流できるよう努めている。 | 夏祭りの御神輿休憩所としてホーム敷地を利用頂いたり、地区の花火大会見物等が地域住民との触れ合いの場となっている。又、ホームの畑に保育園児が芋堀に来ておやつと一緒に食べたり、小学生のボランティア体験受入れ等は、利用者の楽しみにもなっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 外部での研修などに於いて、認知症に関する意見交換などはあるものの、事業所主導で認知症ケアに関して外部の方に話す機会は乏しいのが現状である。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者本人、ご家族の参加し、現状の報告、事業所側の考えを伝えた上で、直接的な意見・要望を頂いている。 | 年5回実施している。町の担当者や包括支援センターへ参加を呼び掛けているが、これまでは利用者や家族代表を交えた内輪のメンバーとなっている。今年度から包括支援センター担当者の参加が予定されている。 | ホーム運営について地域住民の理解を深めて頂く為にも、会議の開催日を検討する等、民生委員や地域住民代表等、幅広い立場の方に関わって頂けるよう配慮する事が期待される。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 町の施設訪問の実施や、認定更新時に立ち会い利用者の具体的な生活状況の伝達、防災関連についての連絡など、連携を深めている。 | 町担当者とは、日頃からホームの具体的な状況報告等を行ったり、スプリンクラー等防災設備に関する相談や連絡等を行い、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関は基本は施錠せず、ホールに誰か職員が居ることを常とし、外出しそうな方への気配りをしている。また、外出しそうな場合は、自然に方向転換したり、声掛けをして危険防止に努めている。 | 玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアについて職員研修を行い、取り組んでいる。利用者の行動をさりげなく観察し、言葉を掛けている。病状的に不穏状態等危険な時もあるが、職員間で協力体制を築き、危険防止に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティングなどに於いて、虐待が起こらないよう話し合い、職員も心に余裕が持てるよう意見を共有しているが、法例などの勉強の機会はなかなか作れていないのが現状である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | こういった制度を理解する為の機会が少なく、必要であるケースに於ける体制が万全であるとは言えない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者の状況を事前に関係機関や家族と連絡を取り合い、お互い納得をした上で行なっている。 疑問点などについては詳しく説明し、不安を解消できるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議への参加や面会来訪時に要望を聞くなどし、利用者及び家族が納得してサービスを受けられるような機会を作っている。 | 管理者は、家族の面会時に要望や意見を聞く機会を設け、運営推進会議等でも検討、報告され、運営に反映するよう努めている。今の所特別な要望はない。家族から感謝されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングや個別面談、また必要に応じいつでも意見交換ができるような雰囲気作りをし、機会を設けている。 | 運営推進会議録は職員会議の中で報告し、話し合いが持たれている。代表者は年1回、管理者は年2回定期個別面談を実施し、又、職員から随時意見や提案を聞く体制もあり、運営に反映している。職員の定着率がよいことから雰囲気の良いかがうかがる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 週1回以上は利用者と接し、職員の意見など踏まえつつ、利用者の状態を把握している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修への参加を積極的に行なっている。 また新人職員については、その職員に応じ内容や時間を調整しながら指導している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修などに於いて、他事業所の職員関係者などとの交流はあるが、施設全体としてはそういった機会は乏しい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | デイサービスやショートステイの利用で、施設の雰囲気慣れていただき、疑問・要望がある時は、できる限り応えるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の要望や今までの本人のサービス利用状況などをじっくり聞き、それをもとにこれからのサービス提供をどうしていくべきかを話し合い、ご家族とも相談している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の要望、状況を確認、把握し、改善にむけてどういった支援をすれば良いか、パターンを考えそれを実行できるように、話し合いや環境作りをしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除や洗濯など、本人のできる範囲で協力していただき、日中の活動を共に行なえるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の状況を必要に応じその都度連絡し、情報の共有に努めている。 また、今後のサービス提供の方向性も家族と相談の上、決めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の意向のもと、馴染みの美容院に行ったり、商店に買い物に出たりしている。 | 通い慣れた美容院へ家族の付添いで出掛けたり、地元の友人が訪ねて来ている。併設のデイサービス利用者に友人がいたり、馴染みの関係も出来、日々交流が図られ、職員は関係が途切れないよう、支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 関係を把握し、利用者同士の中で権力に差が出ないように、普段の生活状況を注意深く見守っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所に移られた場合は、共に情報交換を行い、職員が訪問・見舞いに行くなどし、関係継続に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 声掛けなどから、本人の意向をできる限り把握し、状態に応じてその意向をなるべく尊重できるようにしている。 | 個人の思いや意向に沿えるよう、本人や家族との関係を密に把握するよう努めている。把握が困難な場合には、現状を家族へ報告しながら職員と一緒に考え、個人の意向の尊重に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時の書類やご家族から、本人の生活歴を把握できるよう努めている。 だが、情報が乏しく把握しきれていない部分があることも事実である。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の記録、話し合いから、その人の生活リズムなどを理解し、健康・精神面のわずかな変化に対応できるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族の意向を踏まえつつ、職員間での情報交換、共有、ケアカンファレンスを行い、それに応じて介護計画を立てるようにしている。 | 毎月カンファレンスの日程を職員に周知し、モニタリングは職員全員で取り組み、意見やアイデアを出している。面会時に家族の意向等を確認し、面会が困難な場合は書面にて確認し、現状に則した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録、食事量、排泄などは常に注意深く観察し、各職員はまめに確認し、わずかな変化も見逃さないようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など、必要な支援は柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の小学校5・6年生の栽培委員会の活動をされている子供達による、野菜など実った物を届けて下さる。 月に一度、寄居の町図書館に利用者と一緒に出かけ、気分転換を図る。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人入所前の医療機関へ、ご家族対応で行い、安心感を図るよう心がける。医療機関との情報の共有を図る。 急な怪我などの場合には、専門医の受診を受ける。通院は職員が代行する。 | 診療所併設の為、毎日のように代表者(医師)が足を運び、利用者の様子を見ている。いつでも相談出来る体制にある。専門医や馴染みのかかりつけ医への受診は、家族と職員で支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療法人の管理下の施設の為、日々の利用者の変化は施設内の看護師に伝え、医師の指示を受け、個々の処置を行なう。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際には、職員は病院と情報の共有を図り、定期的に病院へ訪れる。本人の安心を図ることも重要である。退院に向けてご家族への支援も行なう。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人、家族の意向を踏まえ、重度化した場合に於ける対応、サービスの方向性を確認しておき、医師、職員、家族で連絡を取り合いながら、情報が共有できるようにしている。 | 入居時の早い段階で予め方針の確認をしているが、重度化した時点で主治医と相談しながら、再度本人や家族、管理者との話し合いのもと方針を決定している。希望があれば管理者が看護師でもあり、家族と共にターミナルケアを行う体制がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AED及び心肺蘇生法の勉強会を年1回、その他研修なども参加しているが、あらゆる場面を想定し、臨機応変な対応ができるよう、もっと勉強の機会を増やしたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、違った想定のもと訓練を行なっている。また、消防署員に立ち会っていただき、講評頂いたことを踏まえ、その後の訓練実施の参考にしている。もっと実施の機会を増やせれば良いと思う。 | 消防署の立ち合いの下、年2回昼夜設定の防火訓練を職員、利用者が全員参加で行い、避難方法を確認し、身につけて頂いている。スプリンクラーの設置について、町担当者と話を進めている。 | ホームを理解して頂き、協力体制が築けるように、今後地域住民にも防災訓練への参加を呼び掛ける事が期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 得た個人情報、守秘義務や必要な場面を十分に理解し、責任を持って管理するよう努めている。 | 利用者への言葉使いが適切でない場合は、管理者がその都度注意している。職員会議の中で守秘義務や職員の心構えについて話し、利用者一人ひとりに配慮した対応に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の状態に合わせ声を掛け、意思疎通が困難な方でも、表情や態度の中から意向を読み取り、自己決定できる場面を作るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調などに合わせ、レクや入浴なども無理強いせず、その時にできることしたいことを、本人の意向を尊重しながら支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝や入浴の時の着替えなどは、本人と相談しながら要望に合った服装を選んでいる。頭髪、ひげ、爪などの整容についても、必要に応じ支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メニューは色合いや量などに気をつけている。昼食は利用者と相談しながら決めるようにしている。施設で採れた野菜や、家族が持ってきた果物などをメニューに加えている。 | ホームで収穫した野菜や、家族や地域から差し入れられた野菜、果物を中心にメニューが作られている。土曜日はリクエスト日として、出前を取る等好みに応じた食事提供や、季節行事に合わせたメニューを提供し、利用者楽しんで頂いている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の体調に合わせ、量を調節したり、具の大きさ小さくする、刻むなどしている。また、水分、食事の摂取量も記録し、バランスの良い食生活ができるよう工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分でできる方には声掛け、できない方には口腔内が不潔にならないよう支援している。入れ歯の方も清潔に保てるよう支援し、週1回消毒している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの状態に合わせ、トイレ誘導、ポータブルトイレの使用などをし、なるべくオムツ対応にならないよう努めている。 | 排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄が出来るように、タイミングを計りながら誘導している。おむつ使用の方には、プライバシーの配慮に気をつけ、自室での介助に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 繊維質や水分の摂取、散歩など運動の実施などをし、予防に努めている。 特に便秘になりやすい方は、必要に応じ服薬、浣腸の実施などをして、排泄を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴予定などのスケジュールはあるが、その時の体調や希望に添うようにしている。 全利用者がバランス良く入浴できるよう調節している。 | 週3回入浴できるが、デイサービスが併設されている為、平日は時間的な制約があり、土・日に自由にゆったりと入浴できるよう支援している。菖蒲湯やゆず湯等も利用者には好評である。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼夜逆転などの予防の為、日中はなるべく活動を促している。 但し、無理強いせず、生活リズムが崩れないよう注意しながら、休息を取っていただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋、おくすりノートを保存し、いつでも見られるようにしてある。 また、服薬時の反応も記録し、医師と連携しながら、処方、調節を行なっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除、洗濯干し、調理などできそうな事を頼み、力を発揮していただいている。 また、直接的にはできない方でもアドバイスをいただくなど、知識を活かす機会を作っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や体調を考慮しつつ、希望に応じ散歩や外気浴をしている。 また、月1回はドライブやイベントに行くなどし、楽しめるよう計画している。 | 毎日のように外気浴や神社への散歩に出掛け、ホームで飼育しているヤギやウサギの世話をしたり、日常的に戸外へ出て頂けるよう支援している。家族対応の外出支援や、チューリップ見物や外食会等のホーム行事に家族への参加を呼び掛けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭の所持は、家族と本人の意向を踏まえ施設側で管理したり、安心できるよう少額の所持金を持っていただけるにするなど、状態に合わせ支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に、電話をしても良い時間帯や、場面などをあらかじめ確認しておき、本人の希望でなるべく電話などできるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合った貼り絵、書道などの作品製作及び掲示、植木などの飾りをし、季節感を出して不安無く生活できるような雰囲気作りをしている。 | 1ユニット毎に独立している。床や壁等木の温もりが感じられ、廊下は広く、居間の天窓から自然な光が注がれ、心安まる空間が作られている。気候の良い時に玄関の扉を開けると、秩父の山並みが見え、開放感があふれる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | TV前にソファを設置し、皆で歌番組や時代劇などを楽しめるようにしている。 テーブルの席も利用者同士の関係性を考えつつ、意向を踏まえながら決めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具などは昔からの物を使用している方もいる。また、思い出の品を置き、私物が少ない方には、必要に応じ共に買い物に行ったりして品を揃え、居心地の良い空間作りに努めている。 | 居室は6～10畳間と広く、使い慣れたタンスや椅子等が運び込まれている。壁にはホームで作られた作品や写真等が飾られ、一人ひとり居心地の良い居室が作られるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 危険防止、防災、運動の為にも、ホールの通路はしっかり確保し、転倒などしないようにしている。また、必要に応じ、手すりや福祉用具などを設置、購入し、安全な生活ができるよう努めている。 | | |